

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5430889号
(P5430889)

(45) 発行日 平成26年3月5日 (2014.3.5)

(24) 登録日 平成25年12月13日 (2013.12.13)

(51) Int. Cl.	F I
B 6 5 D 33/38 (2006.01)	B 6 5 D 33/38
B 6 5 D 30/16 (2006.01)	B 6 5 D 30/16 A
B 6 5 D 30/20 (2006.01)	B 6 5 D 30/20 A

請求項の数 9 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2008-186647 (P2008-186647)	(73) 特許権者	508218822
(22) 出願日	平成20年7月18日 (2008.7.18)		ゴグリオ ソシエタ ペル アチオニ
(65) 公開番号	特開2009-23732 (P2009-23732A)		GOGLIO S. P. A.
(43) 公開日	平成21年2月5日 (2009.2.5)		イタリア共和国, 20144 ミラノ, ヴ
審査請求日	平成23年5月11日 (2011.5.11)		ィア アンドレア ソラーリ, 10
(31) 優先権主張番号	07425446.7		Via Andrea Solarli, 1
(32) 優先日	平成19年7月20日 (2007.7.20)		O, 20144 Milano, ITALY
(33) 優先権主張国	欧州特許庁 (EP)	(74) 代理人	110000338
			特許業務法人原謙三国際特許事務所
		(72) 発明者	フランコ ゴグリオ
			イタリア共和国, 20145 ミラノ, ヴ
			ィア カノーヴァ, 25

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 特に液体、粘体、糊体、粒体または粉体製品のための、直立型の開閉容易な可撓性材料製のパッケージ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液体、粘体、糊体、粒体または粉体製品を収容するための、可撓性材料により形成された直立型のパッケージ（１）であって、支持底部（２）を有し、当該支持底部（２）の周囲には、向かい合う２つの側壁（３）が立ち上がるように連結されており、上記２つの側壁（３）は、互いの側端部（５）に沿って連結されており、かつ、それぞれ、第１の折り目（３１）において連結された上部蓋（３０）を有しており、

上記側壁の上記上部蓋（３０）に外周部分が連結された、略長形状の上壁（７，１０７）と、

上記上壁の短い方の２つの側部の少なくとも一方に形成され、上記上壁の短い方の２つの側部の少なくとも一方において、製品を取り出すための開口部（２００）を形成するために開かれるようになっている、剥離可能な封止部（１０，１１０）と、

上記剥離可能な封止部（１０，１１０）を切り離し、製品を取り出すための上記開口部（２００）を形成するために、ユーザーによって把持されて引き上げられる、上記上壁（７，１０７）の上の把持手段（７３，１７３）とを備えており、

上記上壁（７，１０７）に連結された上記側壁の上記上部蓋（３０）は、互いに重ね合わされ、上記上部蓋で上記把持手段（７３，１７３）を包み込むようになっていることを特徴とするパッケージ（１）。

【請求項 2】

上記剥離可能な封止部（１０，１１０）は、パッケージ内に収容された製品の継続的な

10

20

使用が可能なように、何度も開閉可能になっていることを特徴とする請求項1に記載のパッケージ(1)。

【請求項3】

上記上壁(7)は、上記側壁(3)とは異なる材料により形成されており、上記上壁(7)と上記側壁の上記上部蓋(30)との間の剥離可能な上記封止部(10)は、異なる材料間の熱融着によって得られたものであることを特徴とする請求項1または2に記載のパッケージ(1)。

【請求項4】

上記上壁(107)は、上記側壁(3)と同一の材料により形成されており、上記上壁(107)と上記側壁の上記上部蓋(30)との間の上記剥離可能な封止部(110)は、剥離可能な接着剤またはワニス等を介在させることによって得られたものであることを特徴とする請求項1または2に記載のパッケージ(1)。

10

【請求項5】

上記上壁(7, 107)は、
対応する上記側壁の上記上部蓋(30)の上に重なる2つの板(75, 175)と、
上記2つの板の間に位置し、その上に上記把持手段(73, 173)を有する中央の蓋(72, 172)とを備えていることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載のパッケージ(1)。

【請求項6】

上記把持手段(73, 173)は、上記中央の蓋(72, 172)の端部に位置する2つの舌部であることを特徴とする請求項5に記載のパッケージ(1)。

20

【請求項7】

上記上壁(7)は、上記側壁(3)とは分離した、少なくとも1つの素材(7)から形成されたものであることを特徴とする請求項1～6のいずれか1項に記載のパッケージ。

【請求項8】

上記上壁(107)は、上記側壁の拡張部分によって形成されており、
上記側壁のそれぞれの上記上部蓋(30)に第2の折り目(35)において連結された板(175)と、
それぞれの上記板(175)に第3の折り目(174)において連結された端部の蓋(172)とを備え、
上記2つの端部の蓋(172)を互いに熱融着することによって、上記把持手段(173)が形成されていることを特徴とする請求項1～2、4のいずれか1項に記載のパッケージ(1)。

30

【請求項9】

上記上部蓋(30)は、上記上壁(7, 107)に開けられた孔部(11)において熱融着されることによって連結されていることを特徴とする請求項1～8のいずれか1項に記載のパッケージ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

40

【0001】

本発明は、可撓性材料により形成された、液体、粘体、糊体、粒体または粉体製品を収容するためのパッケージに関する。

【背景技術】

【0002】

単層の、または多層の可撓性材料(例えばポリエチレン)により形成された型のパッケージは、当該技術分野において知られており、通常、2重の膜を一連に折り重ねて密封することによって得られる。このような可撓性材料は、一方または両方の外側表面が熱融着可能になっている。

【0003】

50

これらのパッケージは、製品で満たされたときに自己支持する直立型パッケージとしても知られており、通常、補強された支持底面および上部端の2つの折り蓋を有し、これらが互いに熱融着されている。

【0004】

実用性および市場経済の理由から、液体のための直立型パッケージが、例えば衛生分野において、液体石鹸、シャンプー、泡入浴剤およびこれらと同様の製品を収容するために、ますます追及されている。

【特許文献1】US特許3,036,756号

【特許文献2】US特許3,738,566号

【発明の開示】

10

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上述した直立型パッケージには、開封の観点からいくつかの欠点がある。事実、パッケージの熱融着された上部の折り蓋は切り離すのが困難であり、ユーザーは一般に、パッケージを開けるために、これらをはさみで切り離さなければならない。

【0006】

US特許3,036,756号には、上部が閉じた管状のシートにより形成された容器が記載されている。当該容器は、上部封止フランジと容器の側壁の一部まで伸延する側部封止フランジとを有している。側部封止フランジを握って引っ張ることによって、上部封止フランジを開くことができる。

20

【0007】

US特許3,738,566号には、特にタバコのための可撓性パッケージが記載されている。この可撓性パッケージは、長方形の平坦な袋と、開閉要素とを有している。開閉要素は蓋形状であり、袋の上端部を覆うように取り付けられることにより、その狭く僅かな部分が袋の側部の上端と重なりあっている。袋は、蓋の上部を引っ張って、上述した側部の重なり合う端部の封止部分を開くことによって、開封することが可能である。

【0008】

本発明の目的は、パッケージの上部の蓋を除去または切り離すために、はさみや他の道具の使用を必要とせずに、簡単に開封することが可能なシステムを有し、さらに材料の伸縮作用により再度簡単に閉じることが可能な、直立型のパッケージを提供することによって、上述した欠点を克服することにある。

30

【0009】

本発明の他の目的は、ユーザーにとって実用的であり、パッケージの内容物に応じて適切に開封することが可能なパッケージを提供することにある。

【0010】

本発明の他の目的は、様々な型の製品を収容するのに適していると同時に、製造するのが容易かつ安価である、多用途のパッケージを提供することにある。

【発明の効果】

【0011】

本発明に係るパッケージによれば、パッケージの上部の蓋を除去または切り離すために、はさみや他の道具の使用を必要とせずに、簡単に開封することが可能である。

40

【課題を解決するための手段】

【0012】

これらの目的は、独立請求項1の特徴を有する本発明のパッケージによって達成される。

【0013】

本発明の有利な実施形態を従属請求項に記載した。

【0014】

本発明において、液体、粘体、糊体、粒体、または粉体製品を収容するための可撓性材料製のパッケージは、2つの対面する側壁が立ち上がるように周囲に連結された支持底部

50

を有しており、当該2つの側壁はその側端部に沿って互いに連結されている。本発明によれば、パッケージを特注生産するため、または握りやすくするために適した形状にすることが可能である。本発明において、各側壁は、折り目において連結された上部蓋を有している。パッケージは、さらに、1. 上述した側壁の上部蓋の周辺に連結された上壁と、2. 上壁の周囲の少なくとも一部に、上述した側壁の上部蓋に連結された、剥離可能な封止部とを有している。

【0015】

剥離可能な封止部は、製品を取り出すための開口を形成するために、開封されるようになっている。

【0016】

製品を取り出すための上述した開口を形成するために、剥離可能な封止部を切り離す目的で、ユーザーが把持して引き起こすのに適した把持手段を、上壁の上に備えている。

【0017】

ユーザーによって、単純で容易にかつ迅速に開封可能である点において、本発明によるパッケージの利点は明白である。

【0018】

本発明のさらなる特徴は、図面に示された以下の詳細な実施形態によって明白になるだろう。以下の詳細な実施形態は、単に例として参照し、それゆえに本発明はこれらの実施形態に限定されない。

【発明を実施するための最良の形態】

【0019】

図（ここでは特に図1）を参照すると、本発明に係るパッケージは、参照符号1と共に全体像が示されている。本発明に係るパッケージは、液体、粘体または糊体、粉体あるいは粒体製品のためのパッケージであり、直立型のパッケージである。そして、本発明に係るパッケージは、少なくとも1つの表面が熱融着可能である1つ以上の層により構成される可撓性材料により形成されている。特に、本発明に係るパッケージは、飲料、コーヒー等のような食糧製品と同様に、シャンプー、液体洗剤、泡入浴剤、洗剤等のような個人衛生製品を収容するために用いることができる。

【0020】

パッケージ1は、支持底部2、および向かい合う2つの側壁3を有しており、側壁3はそれぞれ対応する支持底部2の外周の半分に封止され、封止部4を形成している。そして、側壁3は、それぞれの側端部5において互いに接着されている。各側壁3は、水平な折り目（第1の折り目）31を有しており、折り目31において上部蓋30が定義される。

【0021】

パッケージの支持底部2の拡張を可能にするために、支持底部2のそれぞれの封止部4は、2箇所の傾斜部6のそれぞれによって、側端部5に連結されている。パッケージ1は、それゆえに、上向きに先細った形状のように構成されており、製品で満たした後にこの上部を閉じることが可能である。

【0022】

図2～6は、本発明の第1の実施形態を示している。第1の実施形態において、パッケージ1は、上壁7を有しており、上壁7は、側壁3の上部蓋30上に配置されるようになっている。

【0023】

図3に示すように、上壁7は、長方形の素材70から得られる。この長方形の素材70は、長手の中央折り目71を有しており、中央折り目71はこれに平行な2つの折り目74の間に位置している。折り目74は、2つの長手の半分の中央蓋（中央の蓋）72と2つの側板（板）75とを定義する。2つの半分の中央蓋72は、U型に折り畳まれて互いに重ね合わされ、熱融着部8（図6）によって互いに熱融着されている。これにより、二重の中央蓋72が一体となり、側板75に関して立ち上がるようになる。図4に示すように、二重の中央蓋72は、その端部に、ユーザーによって把持されるのに適した、大きい

10

20

30

40

50

表面を有する把持舌部（把持手段）73を形成するために、中間部が切り取られている。

【0024】

変形例においては、上壁7は、単一の素材からではなく、2つの長方形の半素材から得ることが可能であり、それぞれ側板75および中央蓋72を含む。2つの半素材は、図6Aに示すように、熱融着部8に沿って、それぞれの中央蓋72を熱融着することによって互いに組み合わされる。

【0025】

図4に示すように、形成された上壁7は、その外周の封止部9および10に沿って、側壁3の上部蓋30の端部に熱融着される。上壁7のより短い側に沿って熱融着された2つの封止部10の少なくとも1つは、剥離できるように熱融着される必要がある。これにより、ユーザーが手動で簡単に開くことができる。この目的で、剥離可能に熱融着することができるように、上壁7は側壁3とは異なる材料により形成されている。

10

【0026】

例えば、側壁3をポリエチレン（PE）により形成する一方で、上壁7を剥離可能なポリエチレンにより形成することができる。上壁7が側壁3と同じ熱融着可能な材料により形成されている場合は、熱融着により形成する代わりに、剥離可能な接着剤またはワニスを用いることができることは明白である。

【0027】

上壁7を側壁3の上部蓋30に取り付けた後、上部蓋30は、その折り目31に沿って上方向に折り曲げられて、上壁7と共に本のように閉じられ、上壁7の中央の立ち上がった中央蓋72の端部をこれらの内側に囲い込む。

20

【0028】

特に図2および3に示すように、上壁7の2つの側板75には孔部11が開けられていることに注意すべきである。それゆえに、図5および6に示すように、上壁7の側板75の一方の上に他方が位置しているとき、上壁7の上端部は、上部蓋30の側端部から一定の距離の孔部11において熱融着されている。一方、側壁3の上部蓋30の側端部に近い上部壁7部分は、熱融着せずに残し、把持し易くなっている。このように、図1に示すようなパッケージ1を市場に出す準備が整う。

【0029】

特定の封止手段は、パッケージに圧力が加わるときでさえ、剥離可能な封止部の不本意な切り離しを回避する。剥離可能な封止部は、上部蓋30間を保護し、起こり得る異物の混入を明らかにする。

30

【0030】

本発明に係るパッケージの第2の実施形態を図7～10を参照して示す。上述した要素と同様の要素または対応する要素は、同じ参照符号で示し、詳細は説明しない。

【0031】

第2の実施形態においては、側壁3とは別に上壁7を形成する代わりに、上壁107を側壁3から直接得た。

【0032】

図7に示すように、第2の実施形態におけるパッケージの側壁3は、上部蓋30に渡って連続して形成されている。すなわち、各側壁3の上部蓋30は折り目（第2の折り目）35から始まる封止のための側板（板）175につながっている。側板175は、第1の実施形態の上壁7の側板75と同様の表面領域を有している。

40

【0033】

各側板175の端部と上端部の中央蓋（中央の蓋、端部の蓋）172とは、それゆえに、折り目（第3の折り目）174において連結されている。2つの中央蓋172は、二重の中央蓋172を得るために、共にもたらされ、熱融着部8（図10）によって、互いに熱融着される。そして、二重の中央蓋172の中間を切り取って、その両端に2つの把持舌部173を形成する。

【0034】

50

ここで、図 8 に示すように、二重の中央蓋 172 はより低い位置に形成されており、側板 175 および上部蓋 30 は、中間の折り目 35 にそって折り畳まれ、側壁 3 に対して大体直角に配置される。側板 175 および熱融着された中央蓋 172 は、第 1 の実施形態の上壁 7 と全く同様に、長方形の上壁 107 により形成されている。熱融着された封止部 9 のそれぞれの辺は、上述した実施形態と同様の構成を有するように、折り目 35 に沿って、すなわち、上壁 107 の長手側に沿って形成することが可能である。しかしながら、上部蓋 30 が側壁 3 の延長であるため、この場合、熱融着された封止部 9 は、取り除いてもよい。

【0035】

一方、上壁 107 の短い方の側の端部において、上部蓋 30 と側板 175 との間には、剥離可能に封止するために、剥離可能な接着剤またはワニスが塗布された封止部 110 が形成されている。実際に、全ての側壁がポリエチレンにより形成されている場合、不変的に剥離できない封止を引き起こすので、上壁 107 の短い側においては、ポリエチレン同士を直接熱融着することはできない。

【0036】

最後に、図 9 および 10 に示すように、上部蓋 30 と側板 175 とを本のように閉じて、これにより、把持舌部 173 と共に中央蓋 172 を内側に囲い込む。この場合、また、第 1 の実施形態において説明したように、熱融着に使用される孔部 11 が、上壁 107 の側板 175 に開けられる。最終的に、図 1 に示すような、本発明の第 1 の実施形態に係る完成したパッケージ 1 が得られる。

【0037】

パッケージ 1 を開くために、ユーザーは、側板 75 および 175 上に配置された 2 つの上部蓋 30 を把持し、これらを互いに引き離す方向に引っ張ることにより、図 11 に示すように、孔部 11 における熱融着が破られる。それから、図 12 に示すように、ユーザーは、把持舌部 73 および 173 を把持し、これを引上げる。これにより剥離可能に封止された封止部 10 および 110 が破れ、製品を取り出すのに適した開口部 200 が形成される。

【0038】

もちろん、パッケージが収容する製品に依存するが、上述した開口部 200 の大きさは、上部蓋 30 の端部、すなわち上述した剥離可能に封止された封止部 10 および 110 の長さを変化させることによって、調節することができる。

【0039】

さらに、剥離可能に封止された封止部 10 および 110 を、繰り返し開け閉め可能なように開口部 200 を形成するように、考慮しなければならない。適切な可撓性を有する適切な材料の使用は、適切に再封止するための決め手になる。この方法において、パッケージ 1 の内容物を部分的に消費した場合、開口部 200 を再び閉じることが可能であり、パッケージの中に残る製品を保護することができる。

【0040】

上述した本発明が提案する解決策の利点は明白である。上述の説明および記載に制限されるべきではないが、もっぱらクレームの内容を考慮する。

【図面の簡単な説明】

【0041】

【図 1】本発明に係るパッケージの全体を示し、閉じて直立した状態を示す不等角投影図である。

【図 2】図 1 に示すパッケージの上部を示す不等角投影図と、本発明の第 1 の実施形態における閉じた状態の上部壁の分解図である。

【図 3】閉じた状態の上部壁の組み立て前の平面図である。

【図 4】図 2 に示す上部壁が組み立てられた、容器の上部の不等角投影図である。

【図 5】本発明の第 1 の実施形態に係るパッケージの、閉じた状態の上部の不等角投影図である。

【図 6】図 5 に示す V I - V I 部分に垂直な平面で切断したときの断面図である。

【図 6 A】上部壁が 2 つの部分から形成されている、本発明の第 1 の実施形態の変形例を示す、図 6 と同様の断面図である。

【図 7】本発明の第 2 の実施形態に係るパッケージの上部の、組立の第 1 段階における不等角投影図である。

【図 8】図 7 に示すパッケージの上部の、組立の第 2 段階における不等角投影図である。

【図 9】本発明の第 2 の実施形態に係るパッケージの閉じられた上部の不等角投影図である。

【図 1 0】図 9 に示す X - X 部分に垂直な平面で切断したときの断面図である。

【図 1 1】本発明のパッケージを開封するときの 1 段階を示す、上部の透視図である。

10

【図 1 2】本発明のパッケージを開封するときの図 1 1 に示す段階と一連の段階を示す、上部の透視図である。

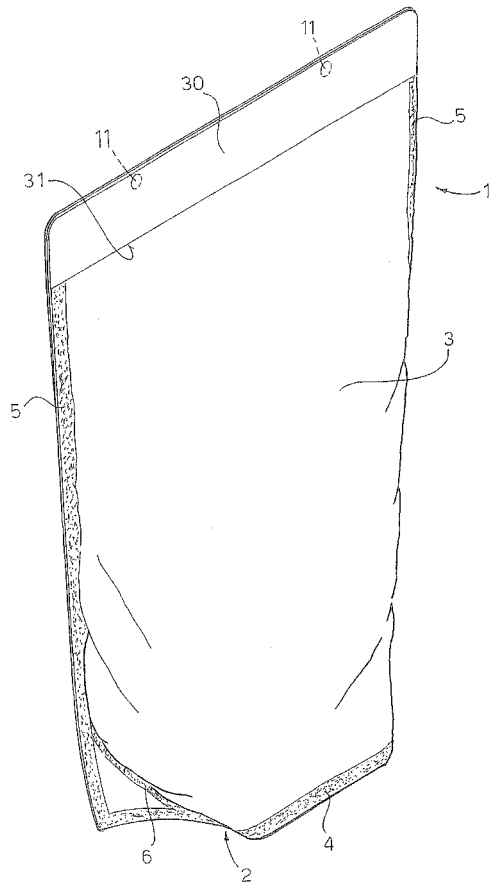
【符号の説明】

【 0 0 4 2 】

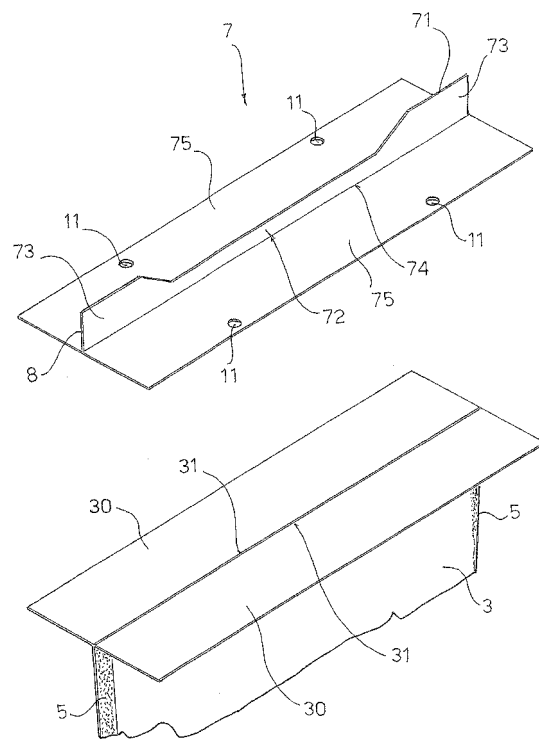
1	パッケージ
2	支持底部
3	側壁
5	側端部
7, 1 0 7	上壁
1 0, 1 1 0	封止部
3 0	上部蓋
3 1	折り目 (第 1 の折り目)
3 5	折り目 (第 2 の折り目)
7 2	中央蓋 (中央の蓋)
7 3, 1 7 3	把持舌部 (把持手段)
7 5, 1 7 5	側板 (板)
1 7 2	中央蓋 (中央の蓋、端部の蓋)
1 7 4	折り目 (第 3 の折り目)

20

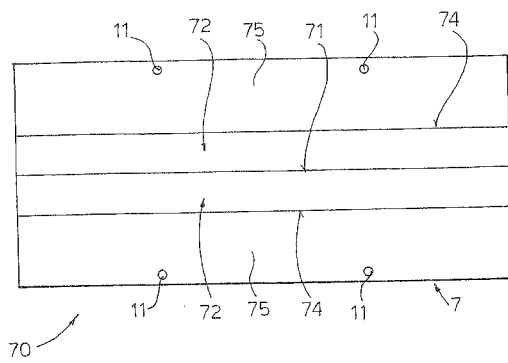
【図 1】



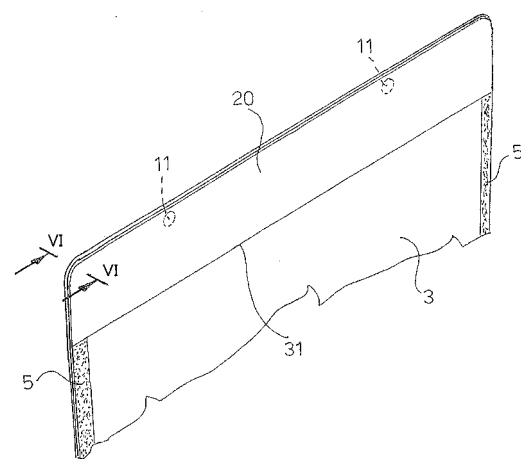
【図 2】



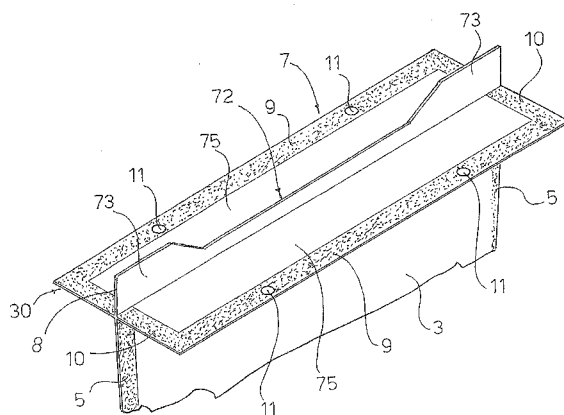
【図 3】



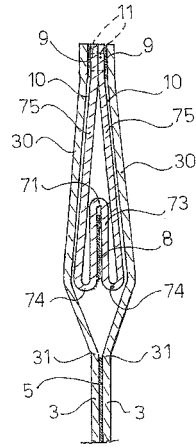
【図 5】



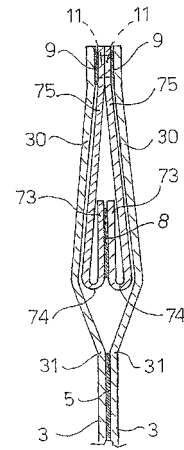
【図 4】



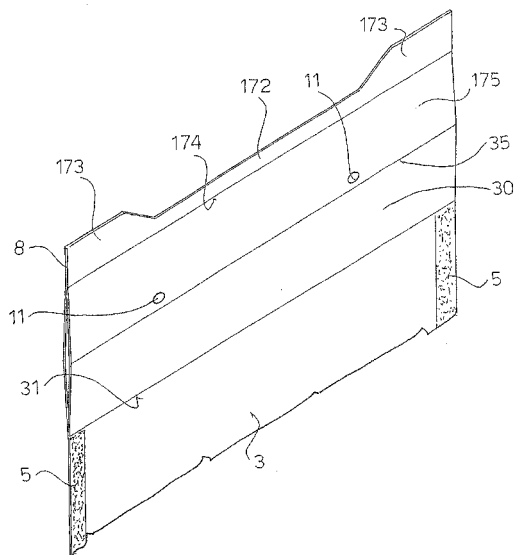
【図 6】



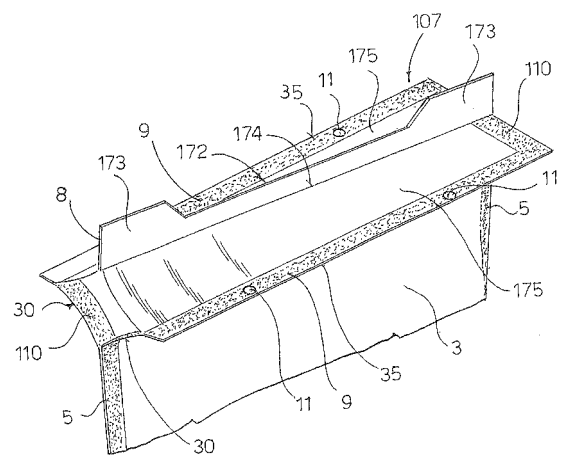
【図 6 A】



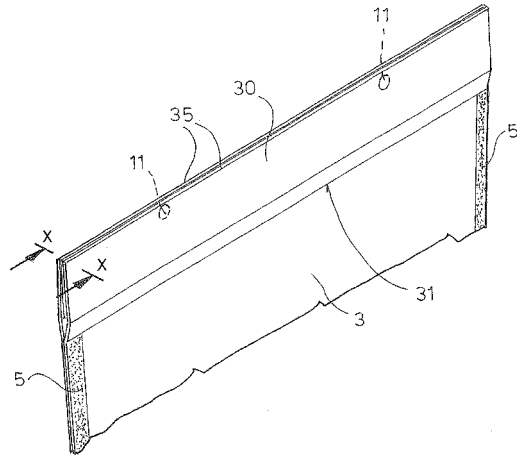
【図 7】



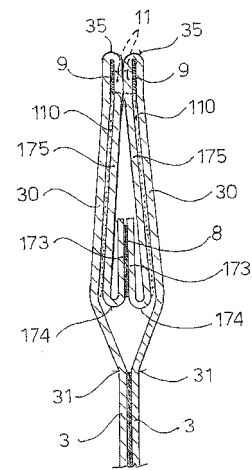
【図 8】



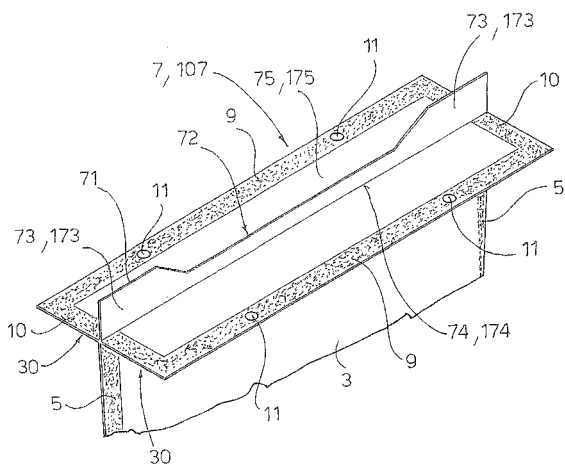
【図 9】



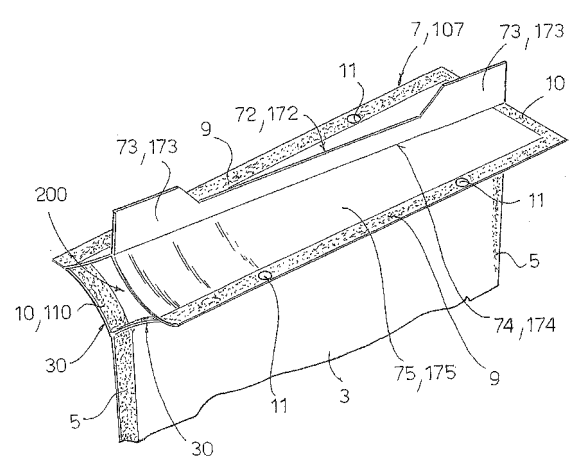
【図 10】



【図 11】



【図 12】



フロントページの続き

(72)発明者 ジョルジオ ボッティーニ
イタリア共和国, 21013 ガララーテ (ヴァレーゼ), ヴィア モンシニョール スキアビー
ニ, 51

審査官 武内 大志

(56)参考文献 米国特許第3036756 (US, A)
特開2001-233357 (JP, A)
特開2003-160176 (JP, A)
特開2000-033953 (JP, A)
実開平06-072848 (JP, U)
特開2006-219168 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 30/00-30/28
B65D 33/00-33/38
B65D 77/00